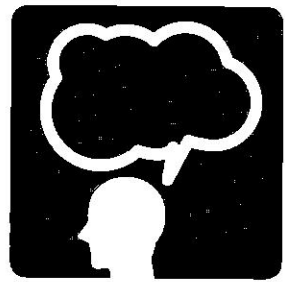


経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑦

おうぎやくこんきゅう
横逆困窮

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

人の鍛え方

心の糧を説いた『葉根譚』の一節には、不遇や困窮した環境が人の成長には必要であり、これが溶鉱炉のような存在となって自らをたくましく鍛え上げてくれるという意を持った「横逆困窮は、これ豪傑を煅煉する一副の鑪錘なり」がある。

後半には、「能くその煅煉を受ければ、則ち身心交も益し、その煅煉を受けざれば、則ち身心交も損す」と続く。その意は、不遇や困窮のなかで鍛えられると、心も身もともに強くなると言っているが、その機会を逃せば中途半端な人で終わってしまうというのである。

「横逆」とは、わがままで道理に反すること。そのさま。横暴などのことを指し「あまりにも横逆な振る舞い」という使い方がある。

今次の介護報酬改定は、訪問看護や介護老人保健施設の一部を除いた多くの介護サービス事業者を「横逆困窮」に追い込んだといっても過言ではあるまい。

改定の根拠となった「主な介護サービスの収支差率」の数値は、昨年3月の経営状況を把握する資

料とはいえ、東日本大震災の影響を踏まえ、青森、岩手、宮城、福島、茨城の5県の介護施設・事業所は調査対象外であり、被災地の介護事業所では、転居・死亡などで利用者が増え減少し減収となったところや、建物や設備機器が破損して多額の修繕費負担から経営状況が悪化しているケースも少なくないこと、調査対象の有効回答数が少なかったなど、訝ればきりがなかったらこそ、介護報酬怪定と揶揄する声も決して少なくない。

降りてゆく生き方

昨年12月、自主上映会でしか見られない映画「降りてゆく生き方」(主演・武田鉄矢、監督・倉貫健二郎)を鑑賞するため秋田に足を運んだ。この2年間、北海道、新潟、東京などで7回も観たことから、脳裏に焼きついた造り酒屋の女将の台詞がある。

「発酵と腐敗って、同じことなんです。人間にとって有益だったら発酵とよばれ、有害だったら腐敗とよばれます。自分のもの、自分のお金、自分の成功、自分のじぶんのつて我欲は、腐敗を招きます。でも、その道をとことん体験して、

初めて腐敗にいきあたって、そして、発酵の大切さがわかる人も必ずいます。良くなるために、悪くなるってことがあることを忘れないうでほしいんです」

発酵と腐敗は、ともに微生物の働きによって有機物が分解されることに違いはないが、その結果が有益か有害かということによって評価が一変してしまう。

「今の世の中、腐敗している」という言葉を聞いて想像できる人はいても、「今の世の中、発酵している」という言葉から思い描くことのできる人は稀であろう。

「あの人は腐敗している」とは言えても、「あの人は発酵している」と口にするものもない。

介護報酬に組み込まれた介護職員処遇改善加算は、第5期3年間の「例外的かつ過渡的な取り扱い」とされ、2015年度以降、給与として確保されるか否か不明という条件付きだから大変ではなく、大きく変わるのであると。

有史以来の超高齢社会を最速で到達するわが国の社会のあり方や介護業界の姿をどう描くのか。

「発酵した社会」をめざした鍛錬を惜しんではなるまい。